

新人紹介

高松協同病院の
新しい仲間をご紹介します!!

①お名前 ②職種 ③出身地 ④趣味 ⑤特技



- ① 明石 健成 (あかし けんせい)
- ② 言語聴覚士
- ③ 高知県 香美市
- ④ ゲーム、パッティングセンター
- ⑤ 耳を動かすこと

高知県より参りました、明石健成と申します。至らぬ点が多々ありますが、医療従事者としての責任を自覚し言語聴覚士としての知識・スキルの向上に勤めて参ります。何卒、ご指導の程よろしく申し上げます。



- ① 遠山 茜 (とやま あかね)
- ② 理学療法士
- ③ 香川県 高松市
- ④ 寝ること、音楽鑑賞
- ⑤ 長い時間寝ること

この度、理学療法士として西病棟に配属になりました遠山茜です。学生の頃より目標としていた患者様に寄り添うPTになるために精一杯頑張っていきたいと思っております。これからよろしく申し上げます。



- ① 中村 美波 (なかむら みなみ)
- ② 理学療法士
- ③ 香川県 三木町
- ④ 写真を撮ること、散歩
- ⑤ インスタ映え

この度、理学療法士として東病棟に配属になりました。地域の人々を心身ともに元気にできる理学療法士を目指して頑張ります。よろしくお願い致します。



- ① 上江洲 太晟 (うえすず たいせい)
- ② 作業療法士
- ③ 沖縄県 うるま市
- ④ バスケ、DVD・音楽鑑賞
- ⑤ 懸垂

はじめまして。4月より高松協同病院東病棟で勤めさせて頂きます上江洲です。緊張しやすい性格ですが早く職場に慣れ、一人でも多く患者様の笑顔を引き出せるよう頑張ります。よろしくお願い致します。



- ① 荻田 ひなの (おぎた ひなの)
- ② 作業療法士
- ③ 神奈川県 横浜市
- ④ 音楽鑑賞、食べること
- ⑤ ダンス

緊張しやすく人見知りな正確ですが、持ち前の笑顔を武器に患者様が少しでも意欲的に「ハビリ」に取り組んでいただけるような支援ができる作業療法士になれるよう、日々精進していきます。宜しくお願い致します。



- ① 山田 光敏 (やまだ みつとし)
- ② 作業療法士
- ③ 香川県 高松市
- ④ 掃除
- ⑤ アームレスリング

患者様の想いに寄り添い、安心感を与える作業療法士になれるよう努めます。また、チームワークを大切に責任を持って業務に取り組みます。よろしく申し上げます。



- ① 亀井 司 (かめい つかさ)
- ② 作業療法士
- ③ 香川県 三木町
- ④ ゲーム、音楽鑑賞
- ⑤ 水泳

物事を考えすぎて優柔不断になりがちなので、迷わないために十分な知識をつけたり、ほどよい判断力を身につけたらと思います。患者様に安心感を抱いて頂ける作業療法士を目指して頑張ります。



- ① 岡野 幸代 (おかの さちよ)
- ② 管理栄養士
- ③ 香川県 さぬき市
- ④ スポーツ観戦、ランチ巡り
- ⑤ バasketボールのフリースロー

「謙虚と感謝」を常に心において、1つ1つの仕事に取り組むたいと思います。人を大切に想い「食べる」事を多職種の方々と協力して支援できるよう努力してまいります。ご指導の程よろしくお願い致します。

吉尾先生
による

歩行回診



2019年3月29日、千里リハビリテーション病院の副院長 理学療法士である吉尾雅春先生をお招きして歩行回診を行いました。

吉尾先生には2017年より継続してご指導いただいております。今回で4回目となりました。当院の回復期リハ病棟に入院されている患者様の治療に介入し、リハビリについてのアドバイスをさせていただきました。技術的な指導では、実用歩行の獲得や患者様のゴール設定、肩の痛みに対するアプローチを学びました。また「医師は患者様の命を預かっている。セラピストは患者様の生活を預かっている」と言われた事が印象的でした。技術的な向上だけでなく、患者様の人間的復権に対して責任を持って関わる必要を感じました。

高松協同病院ではリハビリの質のさらなる向上のため、今後とも継続して学習や研究を行っていききたいと思います。



第8回回復期リハビリテーション病棟セラピスト情報交換会

先日、第8回回復期リハビリテーション病棟セラピスト情報交換会が、西香川病院で開催されました。8施設100人以上が参加、当院からも5名が参加しました。

この会は、香川県内の回復期リハ病棟で働くリハ職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が集まり交流するものです。今回は、10グループに分かれ、リハビリ栄養・職員育成・自動車運転・カンファレンスなどのテーマで交流しました。

リハビリ栄養は、患者様の機能回復上重視されてきているものです。運動量に応じた摂取カロリーの決めかたや、リハビリ直後の栄養補給など他病院の工夫を聞くことができ、患者の役に立つ取り組みに大きな刺激を受けました。当院のNST（栄養サポートチーム）の活動も一人一人の患者に合わせた食事量の設定など優れたものですが、よりよい内容にレベルアップしていこうと思いました。

自動車運転ができるかどうかは、患者の生活に大きな影響があります。当院でも力を入れています。他院では、ドライブシュミレーターを導入しているところもありました。障害を持ちながらも安全に自動車運転ができるよう交流で得た内容を活かしていきたいと思います。

次回は、高松協同病院で開催予定です。



香川民医連学術運動交流集会

3月21日、香川県社会福祉総合センターにて香川民医連第25回学術運動交流集会が開催され、全体の参加者は組合員さんを含め223名、発表演題数41演題で、私たちの日ごろの学術・運動の活動を、共有することができました。交流集会の実行委員長賞を高松協同病院 通所リハビリの「高齢世帯への関わり方そして意欲向上～ナラティブノートを活用して～」が受賞しました。

記念講演は中野智紀氏（東埼玉総合病院 地域糖尿病センター長 在宅医療連携拠点「菜のはな」室長）の「地域包括ケア時代とまちづくりにおける医療・介護従事者の役割～『幸手モデル』の実践から～」でした。

全体会では、高松協同病院のエリアである香川医療生協東ブロックの組合員さんが取り組んでいる「ひとりおせちの取り組み」が発表されました。これは、組合員さんが一人暮らしの高齢者などのお宅に、12月31日に手作りのおせち料理を配達している取り組みです。介護支援センター協同のケアマネージャーからは、「毎年待ちに待っている利用者さんがいます。年明けに「おいしかった」と感想を聞きます。今回初めておせちの中をみて感動しました。」との感想がよせられました。

他職種の発表を聞いての学びの場や、医療・介護の相互理解と連携、地域住民と一緒に取り組むまちづくりについて考える場になりました。



「外来…ここが安心できる居場所」

Aさんは、今日も外来で、新聞を広げてくつろいでいらっしゃいます。

このところ曜日が変わりにくくなったのか、通所リハビリや定期受診のない日も、暑い日も寒い日も、一人で杖をついて来院され、外来待合の喫茶コーナーや自動販売機のコーヒーを飲んだり、テレビを見たりすることが日課になっています。Aさんにとって、高松協同病院は「安心できる居場所」なのでしょう。

Aさんは、80歳代の男性、当院近くの自宅で1人暮らしをされています。

元々、狭心症や不眠症などで外来受診されていました。二人の息子さんのうち、次男は県外在住で、家はAさん夫婦と長男の3人暮らしだったのですが、妻は4年前に施設入所されました。そのころから、薬の飲み忘れや紛失がみられるようになり、不安を訴えて週に1～2回は外来受診するようになり、服薬管理は長男が行うようになりましたが、次第に、仕事をしながら長男が一人でAさんの介護を続けることが困難になっていきました。家にあったドッグフードを食べてしまったこともあり、心配した長男が主治医と相談し、Aさんに施設入所をすすめました。しかし、Aさんは、「なんで家を出ないかんのや」「ここは自分の家や」「出て行くのはおまえや」と言って強く拒否され、喧嘩になり、結局長男が家を出ることになってしまいました。

その後、家はゴミ屋敷状態になり、夏場、冷蔵庫から出しっぱなしの食べ物が置いてあったり、リモコン操作を誤って暖房になっていても気づかないといった様子が見受けられました。そこで介護保険の区分変更を行い、Aさんは要介護1の介護認定を受け、介護サービスを利用するようになりました。長男も週に1回、食事の準備やゴミ出しのサポートをし、介護保険サービスで、週3回訪問介護で朝の着替えや外出、掃除や洗濯の支援と、週3回当院の通所リハビリテーションや当院の外来通院により、心身機能や筋力低下予防に努めることになりました。

サービス利用を開始したばかりのころは、どこかで転んだのか青あざや傷ができていたりすることがよくありました。また、「お薬が足りない。眠れない」などと、頻回に受診される状態が続き、サービス担当者会議で、服薬管理やエアコンの室温管理などきめ細かく対策を話し合いました。会議の中では毎回Aさんと息子さんが大喧嘩する場面が見られましたが、根気強くサービス担当者が対応し、最近では、Aさんと長男の関係も改善され、二人とも平穏な生活を送れるようになりました。

Aさんの望みは「周りの人に助けをもらいながら、この家で暮らしたい」ということ。その強い思いを叶え続けるには、いろいろな困難がありましたし、これからも発生するかもしれません。長男、ケアマネージャー、通所リハの職員、主治医、外来看護師等多職種でしっかり連携し、Aさんの気持ちや希望に寄り添いながら、これからも在宅生活を支えていきたいと思えます。



外来看護より…

私たち外来看護は、看護師5名と保健師1名の6名で体制を組んでいます。

当院外来では、内科と健診、曜日によって整形外来があり看護師と保健師は、診察の介助や処置、注射点滴、健診、前診を行いながら待合室にも目を配り患者様の待ち時間短縮にも努めています。また、気になる患者様宅訪問や体調不慮による受診困難な場合には臨時往診を行ったり班会では、血圧や食事指導、検尿結果の説明から必要なら外来受診へ繋げる役割もしています。こういった活動を通し地域の方と顔見知りになり協同病院が「ホッと安心できる場所」となれるように活動しています。

今後も外来看護では、「目配り、気配りを」モットーに日々奮闘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



外来看護スタッフ一同

東病棟より…

高松協同病院東病棟は、医師1名、看護師19名、介護福祉士8名、理学療法士21名、作業療法士13名、言語聴覚士1名、歯科衛生士1名、管理栄養士1名、医療社会福祉士3名のスタッフが働いています(4月1日現在)。病床は40床あり、2チームに分かれて運営しています。整形疾患が約8割と大多数を占めています。最近では認知症を合併された入院患者様が増えており、安全に配慮した病棟生活をどのように作るかが重要な課題となっています。そこで、少人数でレクリエーションを1週間に1回行い、なじみの関係を作り安心してすごせる病棟づくりに繋がらないか試みています。この活動の中で、患者様は素敵な笑顔を見せたり、積極的に発言したりと普段の病棟生活とは違う一面をみせます。まだまだですが、これからも安心して生活できる場を提供できるように、東病棟スタッフは患者と一緒に研鑽を積み重ねていきたいと思っています。



写真はクイズ大会を行い、景品のプリンを食べているところです。みなさん美味しいと大好評でした。

西病棟より…

最近の西病棟の傾向は、働き盛りの40～50代の脳血管疾患患者様が増え、就労支援や家族支援は元より精神的な支援が重要となっています。そこで質の高い目標設定とリハビリ提供がより一層求められています。一方、独居の高齢者、老々介護はもとより認認介護といった認知症患者様を認知症の家族がみるといったケースも珍しくなく、超高齢化社会と核家族化などの影響もあり退院支援の難しさを経験しています。そのため、スタッフ一丸で早期ADLの向上、在宅・社会復帰への支援と地域包括ケアとして生活・維持期につなげていくことを強化してきました。西病棟単独の3月の数値で振り返ると、実績指数59.9、在院日数は85.5日、在宅復帰率(施設含む)は80%でした。診療報酬改定など、医療現場の経営が厳しくなる中、現場スタッフ人数にも余裕があるとは言えませんが、職員1人1人の頑張りはもとより一丸となって取り組んでくれたことが数値として結果に繋がりました。地域包括ケアの思想と当院の理念を念頭に、多くの患者が笑顔で暮らしていけるよう頑張っていきます。また、働き方改革をはじめ職員への待遇も改善できるよう努力しております。



リハケア部副部長 長尾 百合子